

番号	課名	グループ名
D - 34	おもてなし観光課	観光

事務事業名	うすき竹宵事業						新規・継続	継続		
	ソフト・ハード	ソフト								
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	IV-9-17	観光資源の活用・創出による地域活性化							
	関連施策名(施策コード)	IV-9-18	歴史・文化遺産の活用による観光産業の発展							
基本項目	事業内容(経緯)	市内中心部の二王座歴史の道や歴史文化的な景観などで、竹ぼんぼりや趣向をこらしたオブジェが町を幽玄的に映し出す「うすき竹宵」は、今年で20回目を迎えました。秋の城下町に映し出される竹灯りは、来訪者の心を引付けます。大分県を代表する祭りとして、中心市街地の活性化はもとより観光産業全体への活力につながります。今年度のうすき竹宵は、ぼんぼり2万本、オブジェ32か所、般若姫行列等を中心に実施しました。合わせて実施した20回記念事業の影響もあり、来客数は過去最高の11万人を動員しました。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
					H25	H26	H27			
		①	竹宵実行委員会会員数	実行委員会会員の確保	人	119	121	122	124	130
		②								
	③									
④										
事業対象	来場者、ボランティアスタッフ	成果	多くのスタッフで企画、運営することで会員数が増加しました。実行委員会の継続的且つ安定的な運営により、多くの来場者をお迎えできています。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値		
				H25	H26	H27				
	来場者数	開催エリアの来場者数	万人	9	10	9	11	10		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	21,663						21,663

評価の視点	評価	判断基準		理由	
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない		「うすき竹宵」は、臼杵市の誇れる大きなイベントであり、それによる経済効果や地域の活性化に必要なものになっています。
		有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		うすき竹宵実行委員会と事務局(おもてなし観光課)で竹宵を運営していますが、担当課の人員削減に伴い、実行委員会組織での企画・運営が強化されました。	
事業の問題・課題	実行委員会全体の会員数は維持していますが、主体となって活動する会員(特に若手)が不足しています。人材確保・育成に取り組み次世代へ繋がる組織づくりが必要です。				
前年度の改善案	各担当を補助する役等を設け、個人への負担の集中を緩和できました。竹部会ではオブジェ担当に2名・ぼんぼり担当に1名の補助役を配置、広報部会では部会長の補助役に1名の配置を行いました。実行委員の負担を緩和でき、今後事務局の負担解消に繋がります。				
具体的な改善案	若手会員の活躍できる場面が必要です。委員長経験者や部会長経験者が各部会に補助役として残り、担当者を補助できる体制を整備します。来年度は21回の新たなスタートとして、多くの市民が竹宵に携わりやすい環境を構築します。				

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	官民協同で開催される本市最大の集客力を誇る祭りであり、より感動を呼び起こす竹オブジェやコンサートに磨きをかけ、さらに多くの市民に参画していただく必要があるため。
------	------------------------	----	--

番号	課名	グループ名
D - 35	おもてなし観光課	観光グループ

事務事業名		臼杵市観光交流プラザ管理運営事業						新規・継続	継続	
								ソフト・ハード	ソフト	
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	IV-9-17	観光資源の活用・創出による地域活性化							
	関連施策名(施策コード)									
基本項目	事業内容(経緯)	臼杵市観光交流プラザは、臼杵市全体の魅力を情報発信する役割を担っており、観光客が最初に立ち寄り情報を受け取る場所、また市民も集い交流できる中心市街地のにぎわいの場所となっています。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
					H25	H26	H27			
		①	SNS等を使った情報発信数	FBへの書き込み数	回	—	138	310	130	350
		②	イベントの開催数	特産品のPRを中心としたイベント実施数	回	—	75	62	75	80
③	うすきあるきの定期的開催数	開催数	回	—	1	25	76	100		
④										
事業対象	観光客、来訪者	成果	観光客への詳細な情報提供を行うとともに、週末を中心に臼杵のPRに関するイベント等を開催することで、中心市街地のにぎわいの創出ができました。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値		
				H25	H26	H27				
	プラザの来館者数	来館者	人	—	53,666	54,774	55,687	90,000		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	19,769					570	19,199

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	観光客の玄関口としての役割を果たすとともに、隠れた資源の発表の場、またギャラリーでの展示により、中心市街地の真ん中に位置する特性を十分生かし、市民ニーズに合致した賑わいの創出ができました。
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	観光客へのきめ細やかな情報提供を行うため、コンシェルジュを配置して親切な情報発信が出来ました。また、本市の特徴である食を中心に特産品のPRや、イベントを開催することで、中心市街地のにぎわいの創出につながりました。
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	展示会などの開催による貸館等の使用料収入は年々増えてきています。中心市街地に経済波及効果のあるイベント企画が必要と考えます。
事業の問題・課題	中心市街地全体が活性化し、経済が潤うような仕掛けづくりの観点から、商店街を含めた街中の方々、料飲店組合、観光情報協会、商工会議所等の関係機関にも積極的に参加していただく創意工夫が必要であると考えます。また、今後は2019年ラグビーワールドカップや2020年東京オリンピックを控え、外国人観光客がさらに増加する見込みであることから、インバウンド対策にも力を入れていかなければなりません。			
前年度の改善案	プラザに来ていただいたお客様が、街中へ回遊していただけるよう、工夫が必要です。そのためには、商店街を含めた街中の方々と連携を密にしておくことが重要です。また、より効果的な運営を行うため、「指定管理制度」の早期導入に向け、検討を開始します。			
具体的な改善案	「臼杵市観光交流プラザ」と平成28年10月にリニューアルオープンした「サーラ・デ・うすき」の両施設を拠点施設とし、集客力を高め、中心市街地を回遊していただく事業を展開していきます。また、相互のSNS等を使った情報発信を強化していきます。			

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	観光客が最初に立ち寄る場・市民も集い交流する場として、町なか観光と中心市街地の賑わい創出の拠点として様々な仕掛けができる場であるため。
------	------------------------	----	---

番号	課名	グループ名
D - 36	おもてなし観光課	観光グループ

事務事業名		臼杵市観光情報協会補助事業						新規・継続	継続	
		ソフト・ハード		ソフト						
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	IV-9-17	観光資源の活用・創出による地域活性化							
	関連施策名 (施策コード)	IV-9-18	歴史・文化遺産の活用による観光産業の発展							
基本項目	事業内容 (経緯)	臼杵市観光情報協会は、インバウンドの対応をはじめとする交流人口の増進を図るべく、臼杵市の魅力を発信するため各方面へ積極的なPR活動などを行い、また、観光客受入れのための各種施策を協会員とともに立案を行っており、その活動を補助するものです。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	エージェントへの誘致活動数	エージェントへのツアー造成交渉回数	回	76	70	40	49	80
		②	メディアへの情報提供数	メディアへの観光情報提供回数	回	210	200	480	2,352	200
	③									
	④									
事業対象	エージェント・メディア・観光客	成果	観光情報協会が観光エージェントへの誘致活動やメディアへの情報提供を積極的に行ったことにより、メディアへの露出する機会ができ、資源を最大限にPRする取組みができました。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
				H25	H26	H27				
	各施設の入込数(石仏、下屋敷、吉丸、野上、サーラ)	1年間の各施設に訪れた観光客数 5施設	人	201,225	202,909	200,698	169,344	220,000		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	14,504						14,504

評価の視点	評価	判断基準	理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	観光のまちづくりには民間の参加は不可欠です。市内の観光事業者等で構成され、臼杵の誘致宣伝活動を行う観光情報協会に助成することは、民間の主体的な活動をサポートする上で必要です。
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	平成28年4月の熊本地震の影響による観光客の激減の際には、協会主導で「お得意券」の発行を迅速に行い、観光客の回復に向けた取り組みができました。
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	さらなる交流人口増加を目指すため、観光協会の会員自らが行動を起こすことも重要であると考えています。この点については、協会内に「企画委員会」が設置され、協会事業への会員の参画が促進されることになりました。
事業の問題・課題	観光に関する情報収集は、紙ベースからSNSをはじめとするインターネットでの取得に移りつつあります。そのため、観光情報を迅速かつ正確にホームページ等に掲載し情報発信する必要があります。また、観光に係わる諸団体との連携も今後必要になってきます。これらの中心的役割を観光情報協会が担うことが望ましいことから、事務局体制の強化が必要となります。		
前年度の改善案	平成28年4月東九州自動車道路が全線開通することや増加傾向にある訪日外国人観光客を本市に誘致するため観光客のニーズに合うよう「食」や「お土産」情報など魅力的に発信することが必要です。協会事務局体制の強化を図るとともに、広域観光の推進や協会会員の観光活動の援助、観光情報協会HPの英語表示など、より積極的にメディアへの観光情報発信を行います。		
具体的な改善案	事務局体制の強化が必要なため、不在である事務局長の早期着任を働きかけます。また、臼杵の魅力である「食」を中心に、観光情報協会が主体となり、関係団体と連携し「チーム臼杵」として、情報発信を強化しなければなりません。		

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	行政では不可能な民間ならではの観光産業の振興を図るため観光情報協会の組織体制の強化や観光を生業にするための仕掛けづくりなど引き続き支援が必要で
------	------------------------	----	---

臼杵市 事務事業評価シート  
(平成 28 年度)

番号	課名	グループ名
D - 37	おもてなし観光課	観光グループ

事務事業名	緊急観光推進事業補助金						新規・継続	新規	
						ソフト・ハード	ソフト		
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	IV-9-17	観光資源の活用・創出による地域活性化						
	関連施策名(施策コード)	IV-9-18	歴史・文化遺産の活用による観光産業の発展						
基本項目	事業内容(経緯)	臼杵市の特産である「海の幸・山の幸」を使用した「グルメ」のお食事券を発行することで、熊本地震により減少した観光客数の回復を図るとともに、キャンセルが相次いだ飲食店の復興をめざすものです。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値
					H25	H26	H27		
		①							
		②							
事業対象	市民及び観光客	成果	臼杵市観光情報協会を中心とする「臼杵市緊急観光対策実行委員会」と迅速な連携により、事業がスムーズに実施でき、予定数2,500枚を配布しました。また、市内飲食店の売り上げの回復に貢献できました。						
	成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値
	お食事券配布率	配布枚数÷配布予定枚数	%				100		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	3,119						3,119

評価の視点	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	判断基準	理由
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	キャンセルが相次いだ市内飲食店の利用者数の回復のために、飲食店からの要望に対し、迅速に対応できました。
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	「お得や券」の発行により、減少した観光客数及び市内飲食店の利用者数の迅速な回復に向けた取り組みができました。また、これを契機に「食」をはじめとする「臼杵の魅力」の再発信もできました。
	効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	事業は、迅速かつ円滑に実施でき、飲食店の利用の早期回復が図られるとともに、「市内観光施設への入館」を「お得や券」の交換条件としたため、入館者の増加につながりました。
事業の問題・課題	緊急事業であったため、事業の周知期間が不足していました。また、アンケート結果から見ると、「お得や券」をめざして訪れるお客様より、「お得や券」を観光施設で知るお客様が多く見受けられました。			
前年度の改善案				
具体的な改善案				

課長評価	事業目的達成による完了・完了予定(完了)	理由
------	----------------------	----